



2021 年度 日本医科大学

【 講 評 】

大問構成は昨年度の大問 5 題から 3 題となり、設問数も大幅に減少した。ただし、その出題内容に大きな変化は見られず、これまで複数の大問で出題されてきた長文総合問題が 1 題の超長文に集約されており、英文の総分量も同程度であった。日本医科大学は問題の「見た目」を変化させることが多いが、問われていることは一貫している。この事実を知り、過去問演習で「まずは問題をすべて見渡し、時間配分と解答戦略を固めてから解き始める」ということを意識できていた受験生は落ち着いて対応できたものと思われる。

【 解 答 ・ 解 説 】

I

問 1

1. exceeds

空所を含む文の先頭に Unfortunately 「不幸にも」とあるので、この文はネガティブな内容になる。よって、臓器の需要が供給を大きく上回っているため、臓器提供を必要とする患者に行き渡らない、という意味になる exceeds が正解。

2. growing

空所の直前が the waiting list is であり直後が at a rate of ... であることから、第 1 文型動詞の進行形または第 3 文型動詞の受動態が候補となる。選択肢から第 1 文型動詞は grow と remain だが、第 3 文型動詞は多く絞り切れない。前問に引き続き臓器の共有が不足していることが述べられているため、臓器移植の待機者リストが長くなっているという意味になる growing が正解。

3. declared

空所の直前が who have been であり直後が形容詞 brain dead 「脳死の」であることから、第 2 文型動詞の進行形または第 5 文型動詞の受動態が候補となる。選択肢から第 2 文型動詞は grow と remain、第 5 文型動詞は declare であるが、remain は状態動詞であるため今回は除外する。あとは文意より patients who have been declared “brain dead” 「これまで『脳死』と宣告されてきた患者」となる declared が正解。日本医科大学は本問のように文法的観点で考えると効率よく解ける問題を一定数出題する。

4. defend

空所を含む文は接続詞 **Though** によって譲歩の論理展開となっているので、従属節と主節が反対の内容になる動詞を入れる。従属節は **it may sound grotesque** と **routine removal** について否定的見解を述べているので、主節は肯定的見解となるようにする。**not impossible** の二重否定に注意して「擁護できる」となる **defend** が正解。なお、この文は「循環構文」あるいは「**tough** 構文」と呼ばれる構文であり、本来の **defend** の目的語が主語の位置に移動している。

5. permitted

空所を含む文は先頭に **In some states** とあり、前文の具体化であると判断できる。また、直後に **for example** とあることから、その内容が後文でさらに具体化されていると分かる。前文は「多くの州が角膜に **routine removal** を適用している」という内容、後文は「**routine removal** が適用されている州では角膜の供給が増加している」という内容であり、いずれも **routine removal** の適用に積極的な立場である。「許可なしで角膜を摘出することを許される」という内容になる **permitted** が正解。

問 2

1. (う)

presupposed 「前提とされる」 **taken-for-granted** 「当然と考えられる」と近い意味を持つのは **presumed** 「推定される」である。

2. (あ)

clearly expressed 「明示される」と近い意味を持つのは **explicit** 「明白な」である。

3. (え)

required 「要求される」と近い意味を持つのは **mandated** 「権限を付与される」である。

4. 前者はすべての人が臓器提供に同意することを前提に、同意しない人に登録させる制度である。それに対して後者はすべての人が臓器提供に同意しないことを前提に、同意する人に登録させる制度である。

前者(=presumed consent)の定義は Part D の第 1 段落 4 行目からの **all citizens would be presumed to be consenting donors, but they would have the opportunity to register their unwillingness to donate** の部分である。後者(=explicit consent)の定義は Part B の第 1 段落 2 行目からの **people have to take some concrete steps to demonstrate that they want to be donors** の部分である。解答例のように両者について「誰に登録させるか」だけでなく「何を前提とするか」にも言及するとまとめやすい。

5. 臓器提供に同意することを示す手続きが煩雑であり、臓器提供に同意していてもその手続きが不十分であることが多いため、実際にドナーとして認められる数が少ないということ。

Part B の第 1 段落 3 行目から **explicit consent** の問題点が述べられている。要点は「臓器提供に同意することを示す手続きが煩雑であること」「手続きが不十分であることが多いこと」「ドナーとして認められる数が少ないこと」であるので、これをまとめる。

問 3. (え) 選択肢では「オンライン調査の結果がヨーロッパ諸国の同意率調査の結果と一致しない」と述べられているが、本文では Part D の第 4 段落・第 5 段落に「臓器提供に同意する割合は、オンライン調査の結果は explicit consent を適用した場合が 42 パーセントで presumed consent を適用した場合が 82 パーセント、ドイツとオーストリアの比較調査の結果は explicit consent を導入するドイツでは 12 パーセントで presumed consent を導入するオーストリアでは 99 パーセント」と述べられており、両調査の結果は一致しているため。

日本医科大学に特有の「解答の判断理由」を記述させる問題。「選択肢にどのように書かれているか」と「本文のどの部分に、どのように書かれているか」を述べれば良い。設問の the discussion of Johnson and Goldstein's study は Part D の第 3 段落以降で言及されている。選択肢(う)の when the default was donation は presumed consent の場合を、when the default was non-donation は explicit consent の場合をそれぞれ示しており、本文の内容と合致している。

問 4. (い) 選択肢では「人々に臓器提供カードへの署名を求める」と述べられているが、本文では Part F の第 2 段落に「臓器提供に同意することを運転免許証に示すことが求められる」と述べられているため。他の選択肢の主語が explicit consent・presumed consent・routine removal であるため、それぞれ Part B・Part D・Part C を参照する。この設問は最初に確認しておき、本文を読み進めながら各選択肢の是非を判断すると時間の短縮に繋がる。日本医科大学は本問のように「どの順番で読み、どの順番で解くのが効率的か」を考えさせる出題をするので注意すること。

問 5. b

Part A の第 3 段落 3 行目から In the United States, roughly twelve thousand to fifteen thousand potential donors are in this category (=patients who have been declared "brain dead") each year, but fewer than half become donors. と述べられている。選択肢の「年間 12000~15000 人」という数字は「臓器移植に合意する人の数」ではなく「脳死と宣告される人の数」なので b が正解。

問 6. c

Part A の第 3 段落・7 行目から It turns out that good default rules can increase available organs and thus save lives. Let us consider the possible approaches. と述べられており、この the possible approaches の具体例が Part B 以降で言及されているので c が正解。b は前段落の具体化、d は前段落との対比という選択肢であり不適。

問 7. c

下線部に関する設問は、まず下線部（を含む 1 文）の直訳を考える。直訳で解けない場合のみ、前後の文を考慮に入れる。本問は下線部を直訳すると「人々のドナーになるという意味は必要な行動に移されなかった」となるので c が正解。

問 8. b

comprehensively 「包括的に」に近い意味を持つのは extensively 「広範に；大規模に」なので b が正解。他の選択肢は analytically 「分析的に」legally 「法的に」routinely 「規定通りに；日常的に」で不適。

問 9. d

空所 A・B ともに形容詞が入るので選択肢 b・c は除外。選択肢 a・d は空所 B の単語の意味が似ているので空所 A で判断する。空所 A・B を含む部分の直後にある逆接 But 以降では「臓器提供に関する調査では、同意すること前提とする場合と同意しないことを前提とする場合で調査の結果が異なる」ということが述べられている。よって、空所 A には「結果は同じ」という内容になる identical が入るので d が正解。

問 10. c

opt-in system は explicit consent の制度であり、opt-out system は presumed consent の制度である。選択肢 a・d は後者の記述なので不適。選択肢 b は opt in system も opt-out system も prior default を持つので不適。選択肢 c は「臓器提供に同意しないことを前提とする」という内容なので正解。

問 11. d

挿入する文は therefore とあるので、直前に The default rule is not the only thing that matters. と述べる理由が来る。空所 C の直後に A program ... requires a complete infrastructure. とあり、the default rule 以外に重要なものが挙げられているが、空所 D・E の直後はその具体化であるため、本問はその後の空所 F に挿入するのが正解。

問 12. d

blur 「ぼんやりさせる ; 曇らせる」だが、この単語を知らなくても解ける。下線部を含む 1 文を直訳すると「この方針は presumed consent と explicit consent の区別を blur する」となる。This policy 「この方針」とは前文の「フランスは presumed consent を導入する国であるが、医師がドナーではなくドナーの家族の意思を尊重する」ことを指すので、文意より「ふたつの consent の区別を曖昧にする」となる d が正解と分かる。選択肢 c は「排除する ; 除外する」だが、区別をなくすのではなく、区別の存在を前提にそれを曖昧にするという内容。他の選択肢も clarify 「明らかにする」differentiate 「差異化する」なので不適。

問 13. a・d

Part E は一貫して「presumed consent のほうが explicit consent より臓器提供率が上昇する」と述べており、前者の具体例としてスペイン、後者の具体例としてアメリカが挙げられている。よって選択肢 d の「アメリカは presumed consent を導入したら臓器提供率が上昇するだろう」という仮説は正解。選択肢 a は前問での参照箇所の内容と合致するので、これも正解。選択肢 b・c はそれぞれ「アメリカのほうがスペインより」「explicit consent のほうが presumed consent より」と述べており、本文と比較が反対なので不適。

問 14. c

空所 G の直前では「より多くの州が mandated choice を導入するイリノイ州の後に続くことを期待する」と、直後では「それ (=mandated choice) は多くの命を守り、自由も保護する」とある。いずれも mandated choice に肯定的な見解なので、順接の c が正解。選択肢 a・b は逆接なので不適。選択肢 d は without が不適。

II

問 1. a

問 2. c・e

問 3. a・c

問 4 1. d 2. a

congestion 「過密；渋滞」 construction 「建設」 contradiction 「矛盾」 conversion 「転換」 conviction 「確信」

問 5 1. c 2. d

discard 「捨てる」 discharge 「排出する」 dispute 「論争する」 distort 「歪める」 distribute 「分配する」

問 6 1. d 2. b

dilute 「薄める」 hinder 「妨げる」 mutate 「突然変異する」 torment 「苦しめる」 vow 「誓う」

問 7 1. e 2. d

choke 「窒息させる」 drown 「溺死する」 frown 「眉をひそめる」 mourn 「悼む」 stumble 「つまづく」

問 8 1. b 2. d

alternate 「交互の」 swift 「即座の」 toxic 「有毒な」 vertical 「垂直の」 vigorous 「精力的な」

III

The question of which method of obtaining consent to use is raised in the case of vaccination. Doctors use presumed consent rule for measles vaccination, chicken pox vaccination and so on while they use explicit consent rule for influenza vaccination. Some people are reluctant to get vaccinated because they are afraid that side effects may affect their ability to do daily activities. However, from an epidemiological point of view, the more people are vaccinated, the more the circulation of the virus will be reduced. Today COVID-19 has become a world-wide pandemic and new vaccines have started to be taken. Considering the fact that medical system is under pressure and that there is an impact on the economy, doctors should use presumed consent rule for COVID-19 vaccination to increase vaccination rate.

設問には「大問 I の文章で議論された 4 種類の同意について、臓器移植以外の具体例を挙げ、どの方針がどのような理由で適切であるか、1 段落または 2 段落で論じなさい」とあるので、この指示を厳守する。

以上